

令和元年度岩手県中部保健所運営協議会会議録（概要）

- 日時：令和元年6月25日（火）18時30分～20時05分
- 場所：花巻市南万丁目970-5 花巻保健センター 2階集団指導室
- 出席者：別添委員名簿のとおり31名（委員出席17名、代理6名、事務局8名）
- 傍聴人：0名（報道機関1名）
- 会議内容

1 開会（中野次長）

〈会議成立報告：委員24名中17名の出席〉

※議事開始時には委員14名の出席

2 挨拶（柳原保健所長）

本日はお忙しいところ、本協議会に出席いただきましてありがとうございます。

また、委員の皆様方おかれましては常日頃、保健医療、福祉、環境衛生の各分野の向上にそれぞれのご立場からご尽力いただきますことをこの場をかりて御礼申し上げます。

さて本日の協議会でございますが、皆様ご覧のとおり保健所の本年度の運営方針についてご説明申し上げ、ご協議いただければと思っております。

保健所業務といいますと、大変幅広く、法令に基づく許可に伴う立入検査による開示機能から、医療、保健、環境衛生に亘る幅広い計画に基づく施策の推進によりまして、地域の公衆衛生の向上に努めているところです。これから、各担当課長より本年度の運営方針についてご説明申し上げますので、限られた時間の中ではございますが、委員の皆様方からは活発なご意見をいただければと思っておりますのでございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 委員紹介（中野次長）

別添委員名簿順に紹介

4 議事

(1) 会長・副会長の選任について

会長に北上市市長の高橋敏彦委員、副会長に花巻市医師会長の三浦良雄委員が選任された。

(2) 令和元年度運営方針について

資料№.1・2に基づき、事務局から説明の後、次のとおり協議等が行われた。

（説明者：渡辺管理福祉課長、後藤技術主幹兼保健課長、三浦技術主幹兼環境衛生課長）

○花巻市 健康福祉部長 高橋 靖

本年度の運営方針の中でということでしたが、まず一つは、引きこもり支援の推進についてです。先ほどの説明の中で、県の中でその実態調査をやられたということでしたが、そのデータのフィードバックで、本市において引きこもりと思われる方々が100人を超える人数という情報をいただいています。引きこもりと思われる方々の解消というのは非常に難しいことだと思いますし、保健所におかれましても様々な取り組みをされていると思います。私もこの部分に関してご相談があれば、訪問等でご本人と接触という取り組みも行っておりますが、なかなか当事者とお会いしてからのノウハウ、対応といったスキルというものが無いので、至らない部分がございます。そういうことで支援の部分についても市との連携を引き続きお願いしたいと思っております。

もう一つは、自殺対策についてです。昨年末、当市において、自殺対策推進計画を策定しました。計画策定につきましては、保健所からも多くの助言をいただきまして御礼申し上げます。計画策定におきまして、本年度からはその推進ということになっていくわけですが、その中に、ゲートキーパーの養成講座もあります。それを円滑に進めるためのご指導をいただき、資料等もいただいておりますが、引き続きご指導方よろしくお願い致します。

○遠野市 健康福祉部長 鈴木 英呂

災害医療対策について、昨年度は花巻市の訓練と合わせてという形で実績がありますが、今年度はEMIS（広域災害救急医療情報システム）を活用してという記載がありますけれども、このシステムと今年度の災害医療対策訓練の計画があればその内容を教えていただければと思います。

○西和賀町 保健師長 廣田 里美

今年度、町の健康増進計画の中間評価の年になっておりまして、アンケートを実施し、計画の進捗状況を確認することになっております。その中でも、検診の受診率、特に胃がん検診の受診率が低いのですけれども、実は対象者が少なくなっており、高齢化が49%近いわけです。そのせいかわかりませんが、一人当たりの受診の時間がかかってくるので、地域の公民館を回っても、なかなか進まなくて、それでますます受診率が下がっている。検診の機関からは、1台あたり45人を目標にと言われているのですが、なかなかクリアできなくて検診日数が少なくなる見込みだということです。高齢化といったことから検診のあり方をどのようにできるのかというところが課題になっております。

それから、煙草の取組は西和賀町ではかなり遅れているところでした。保健所から、ポスターやチラシをいただきました。そして、ポケットティッシュをいただいたんですけれども、それを会議のところで配付しましたところ、結構効果がありました。今年度は、特にここに重点をおいてやっていきたいと思っております。引き続きご協力をお願い致します。

○花巻市医師会長 三浦 良雄

感染予防対策の件に対しまして、一言お願いしたいと思っております。昨年、関西方面で成人の風疹が多く発生して、出生時の先天性風疹症候群ということについても感染を聞いています。それで風疹の予防が叫ばれて、ワクチンの摂取も今行なわれているわけです。特に風疹のワクチンが行なわれなかった39歳から56歳までの男性に対して、行政処分によって抗体検査と、結果により風疹のワクチンが投与されているわけです。一昨年には、はしかの感染も話題になっていたわけで、まずは中部保健所管内での風疹、はしかの、成人の発症はどのくらいあったのかを教えてください。また、新型インフルエンザだけの予防対策ではなくて、こういうはしかとか風疹などの感染予防に対する普及啓発もあつたほうがいいのではないかと思います。保健所の考えを伺いたいと思っております。

○北上医師会長 根本 薫

1ページの2(1)のところ、圏域計画に掲げた重点的な取組事項、脳卒中、周産期云々とありますが、これは方針なのであまり具体的なことを聞くのはどうかと思うのですが、ただ待ったなしの問題もあると思っております。皆さんもご存知かと思っておりますが、先日発表になった10万人当りに対しての脳卒中の死亡者数が岩手県は1位と書いてありました。これは、全体が減っていて、減っていく流れに追いつけずにいるのか。細かい数字は忘れましたが、2017年より増えたんですね。ということは、今までのやり

方だと効果不十分と言わざるを得ないと思います。

それから、周産期ですけれども、中部地域は多少良いかも知れませんが、私もこの間初めて知ったのですが、中部地域、胆江地域、一関地域の4号線沿いが県南で一つのブロックと聞きました。特に奥州に産婦人科医が1人もいなくて、壊滅状態。これは悠長なことと言ってられないと思います。待ったなしで具体的な政策を打たないとならないと思います。早急に手を打たなければならないところがあると思いますので、よろしくお願い致します。

○遠野市医師会長 千葉 純子

災害医療に入るかわからないのですが、今、医師会で悩んでいるのは、7月にブラジルのブライトサッカーチームが合宿で1週間か2週間くらい遠野に来ます。そして練習試合をする。帽子かぶった担当ドクターも来るけれども、医師会に何かあったらよろしくって言われました。遠野病院は外科がない。市内に専門医が1人しか居ないので、担当ドクターにし、そこから医療連携になると思いますが、どうでしょう。かなり激しい練習らしく、そして頭のぶつかりも多いということで、怪我也多いという話は聞いております。まだ先の話ですけれども、これは岩手県全体の話ですが、今年はラグビーワールドカップもあります。遠野市は主に駐車場になりますので、いろんな方々が乗り降りします。そこでいろんな物が持ち込まれます。テロがあるとか。これは市全体、県全体でも対応していると思いますが、花巻市も宿泊施設がたくさんあるので、医療連携が出てくると思いますので、皆様によろしくとお願いすることになります。その点に関して、保健所からも何か案があればと思います。

○花巻市歯科医師会長 畠山 良彦

フッ素の歯科保健に関して、フッ素洗口を推進するということですけれども、去年は遠野市、今年には西和賀では行う予定になっているみたいですが、隣の花巻や北上では何をやっているのかわかりません。推進するのは構わないのですが、特定の地域だけ、特定の保育園だけとかではなくて、管内の部分でリーフレットやそのほかのPRなどあれば、拡がりがあり、理解が得られるのではないかと思いますので、よろしくお願い致します。

○北上歯科医師会長 高橋 和敬

先ほどフッ素の話があり、西和賀町の子達は実施していただけるということで、規模的には西和賀町の保育施設ということで人数的にはかなり少ないのかなとは考えていますが、その方が結果としては早くはっきりとした形で出てきやすいのかなと思います。西和賀、遠野だけではなく、是非、広い範囲に広がってくれば、こちらとしても積極的に取り組みたい事業ですのでよろしくお願いしたいと思います。また、中学生に今年からポスターをお配りになるということで、前回見させていただきました。それに関しては中身もすごく良いものでしたので、ぜひとも中学校、小学校も含めて、利用させていただきたいと思いますから、予算の都合もあるとは思いますが、なるべく多く出していただければと思います。

○遠野市歯科医師会長 田中 昭彦

遠野市では、平成29年度、30年度と保育園、幼稚園児の年長を対象にフッ素洗口を保健所の事業としてスターとさせていただいたのですが、実はその理由が恥ずかしい話ですけれど、12歳児のDMF歯数、う蝕経験歯数が遠野市が県内でワースト1なんです。それを何とかしなければいけないということから始まった事業なんです、お陰

様で今年度、今月から市の事業として、市内の幼稚園、保育所の全施設で始まっております。保健所が取っ掛かりを作ってくれたおかげで、順調に開始されております。ただ、今は年長児だけなので、意味がないわけで、小学校にも何とか広げていこうと思っております。先日、新しくなった教育長さんと面談した時のことですが、教育長さんもすごく前向きに考えてくれて、是非小学校でもやろうということになっています。これから算段するのですが、保健所にも今度は小学校の取組もサポートしていただければと思います。よろしくお願い致します。

○花巻市薬剤師会長 山田 裕司

薬物乱用防止対策ということで、近年学校で、薬物乱用防止講座を開いているときに、危険ドラッグという話題を入れながら話していたのですが、めっきり危険ドラッグはスイートして減ってしまいました。逆に、最近ネットや色んなので話題になっているのは大麻です。治療用大麻とかいう形で、ネットで知るといいう人が多くなって来たのかなと。また、大麻、けし撲滅運動ですが、大麻もこの辺にも一杯自生しているわけで、もし薬物乱用予防推進委員等の中でお話しする場合には、是非、今度は時代の流れとしてそういうお話も入れていけばいいのかなと思います。

○北上薬剤師会長 三浦 正樹

色々な分野で、ひきこもりにしても、感染症、自殺対策にしても、薬局に関係することはたくさんあります。かかりつけ医ということで、色々な病院、医院も関係してくるかとは思いますが。薬局も自殺対策ですと、ゲートキーパーという形でそういう働きもしますので、もしそういう動きがある時は、是非声をかけていただければと思います。あと、今は在宅が進んでいますので、もしこちらの管轄と違ったら申し訳ないのですが、そういう情報も頂けたらと思います。よろしくお願い致します。

○獣医師会花巻支会長 副支会長 白石 俊哉

獣医師として関わりがあるのは、環境衛生課 8 ページの狂犬病予防のところ。獣医師会としましても関係機関の指導の下に、予防接種を勧めて行きたいと思っております。

○中部病院院長 伊藤 達朗

私のほうからは3点です。1 ページ目の脳卒中、心臓病、その他の循環器医療対策基本法が10月1日に制定され、基本計画があり、県の方として我々病院に対する何か方針であるとか、その辺の話をお聞きしたいです。

次に、4 ページのところ、健康増進法改正で、7月から敷地内禁煙ということがありますが、これも県の施設全体でどのような対応をされるのかをお聞きしたい。

それから、6 ページの感染症防止対策のところなのですが、圏域の中で、人数ではなくて、食中毒の件数が多いのを上から3番目くらいまでお知らせ頂ければと思います。

○遠野病院院長 事務局長 千田 了

遠野病院からは、事業報告と情報提供になります。2点ほどあります。

まずは地域医療構想に直接関わる部分ではないかもしれませんが、今年1月から地域包括ケア病床16床を導入しております。今、病床利用率70%弱ぐらいを推移していますが、80%くらいまで上げたいと思っております。いま、レスパイト入院等をかなり引き受けたいと思っております。各施設担当課等を回りながら説明しているところであります。

医療人材育成に直接関わらないかもしれませんが、7月13日にオープンホスピタルということで、当院で初めて病院を開放するようなイベントを企画しています。対象としては、地域の住民の方々どなたでも来てくださいということですが、高校生とか、中学生にも来ていただいて興味を持っていただけたらなという活動をしようと思っております。

○特別養護老人ホーム遠野長寿の郷 施設長 菊池 浩之

運営方針を見させていただきまして、色々多岐に亘って制度の改正とか地域の情勢の変化に対応していただいているので、特に質問はありません。ひとつ意見を言うとしたら、我々は、介護施設の者なので、認知症についての取り組みというか、まあ介護保険の保険者である市町村、介護施設の我々もそうなのですが、県としても国としても認知症予防の取り組みというものが出ていますので、認知症対策もだんだん保健所の方針の中に入れてくれば。具体的な提案はできませんが、認知症も引きこもりも地域の状況であり、様々な分野に影響してくるものなので、是非そういうところにも目を向けてほしいなと思います。

○総合花巻病院訪問看護ステーション管理者 高橋 紀代子

運営方針の中には入っていないのですが、私達は在宅に関係しております。在宅での看取り、先生方のお力も必要なのですが、在宅の看取りがだいぶ進んできている。けれども、一般の方たちがおうちで亡くなるということは、難しいこと、不安なことがすごく多いということがやはりあります。ですので、在宅での看取りのところが自然な形であること、あとは、揺れる気持ちのところを支えていけるといいなと考えております。このほかに、精神疾患の方々も在宅の方ということが言われていて、訪問看護ステーションでも精神疾患の方に訪問するというステーションが増えてきました。前年度までは、特定の方だけでしたけれども、そういう方面でもバックアップしていただければ、私達のほうでもお伺いしやすいかと思っております。

○介護老人保健施設ゆうゆうの里 事務長 佐藤 昭太

人材育成においては、介護の現場であっても看護師不足が問題だとは思っています。中学生や高校生を対象に職業について広く理解を深める取組も有難く思います。現在、人材が不足しているのもそうなんですけど、人材育成に向け普及啓発して頂けたらと思います。

○食品衛生協会北上支会長 中村 好雄

私のほうからは、まず4ページ(4)イとウについてです。イ、外食栄養成分表示店登録事業の推進とウ、健康に配慮した飲食店等の環境整備に向けたアンケートの実施をどのような形で周知していくのか、そのことについてお尋ねしたいです。

それから、HACCPの普及促進を8ページで謳われています。多分、保健所も大変お忙しいし、件数も多い。私ども食品衛生協会の中でも衛生指導員の数が少なくなっている。ということで私共としても衛生指導員の確保という課題が非常に厳しい状況になっています。その辺を含めて保健所と連絡を取りながら、私共も会員の皆さまにも御協力を仰いでいきたいと思っております。

それからもう一つ、全体的に食品衛生協会の会員数が減っています。そこでもお願いがあるのですが、資料、リーフレットを出しますので、営業許可を出される場合に、食品衛生協会に加入していただきたいということを一声かけていただくことがあると有難く思います。何とか会員数を増やしていきたいのでよろしくお願ひしたい。

○花巻市保健推進委員協議会長 川村 優子

花巻市は保健推進の課題が沢山ありますけれども、その中で5ページ、心の健康づくりの推進についてお話したいと思います。昨年度花巻市も自殺対策計画を作りまして、その基本施策の2として、1次予防、住民全体へのアプローチということを取り上げております。私達保健推進委員協議会としまして、ゲートキーパーの養成講座について凄く関心がありました。今年の5月に総会を行なった後の研修会に、ゲートキーパーについて、秋田大学の先生をお呼びして皆で学びました。その際、私達会員だけではなく市民にも呼びかけて、講座への呼びかけを行ないました。今年、心のケアについても少し進めてまいりたいと思います。

○遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会長 菊地 セツ子

3ページの1番の関連の活動をしています。食事での1日の塩分摂取量を知り、適正化への新しい活動として、県食品改善協会でも減塩モニター器具を昨年から買いました。33市町村支部の食改協の皆さんも今年1年間調査します。一般の方々に使ってもらいます。そして結果を記入してそれを分析する予定です。減塩測定器を使って適正塩分摂取、食事からの減塩普及を更に進んだ方法として実施予定です。もう既に今から進めています。

○花巻市消防本部消防長 笹間 利美

方針の6ページ、感染症予防対策についてお話します。感染症に付きまして、県庁、各消防本部で協定を結びまして、感染症世簿対策等は取られているところです。昨年度感染症予防対策としまして、管内の3つの消防職員を対象とした、個人防護服、また救急搬送用用具等の研修を開催していただき大変ありがとうございました。御礼を申し上げます。今年の予定は、感染症患者に関する情報伝達訓練、搬送訓練、ということで考えております。感染症予防対策の変更とか、職員の移動もあり、また、職員も一回に多く派遣できませんので、毎年実施していただきますよう要望をお願い致します。

○北上警察署 生活安全課長 後藤 秀樹

警察の視点で言えることとしては、引きこもりの問題と薬物乱用の問題です。

まずは、引きこもり、ニートの問題です。偏見や混乱があるという方も居ると思いますが、先日川崎登戸の通り魔事件と、数年前の被疑者加藤ともひろ、秋葉原の事件では、大量殺傷事件、これは多くの善良な市民の方たちが命を落としています。結果的には引きこもり、ニートの方たちが被疑者だったわけですが、これによって差別していくことは決して許されません。そして、マスメディアもこのようなことを、被疑者の日常を取り上げにくい部分もあります。ただ、犯罪の発生状況を分析してみれば、このように社会的に不満を持っていらっしゃる方、このような人生を送っているのは社会が全部悪いんだよ、という考えを持っている方々が大きな問題を起こしているということは事実であります。警察は犯罪が発生したら被疑者を捕まえて公判で有罪にする、というだけではなくて、事件が終わっても犯罪被害というものは決して終わっていませんから。このような引きこもりの方を把握した場合に、警察で何ができるのか、保健所とタイアップしてこの方々をどうやって救ってあげられるか、ということを考えていかなければならないと思いますし、そのことにより結果的には犯罪被害者を減らすことができるのではないかと考えております。

あと、薬物乱用の問題ですけれども、最近の覚せい剤の状況ですが、昔は1g当り6万円していたものが、今は1g当り4万円です。今でも例外ではないということです。岩手の方にはそんなにいないと思っていたのですが、さすがに覚せい剤はあ

まりいませんけれども、たまに大麻で捕まってしまう者がいます。この影響は何でかという、アイドルが捕まった、ミュージシャンが捕まったという問題が、ネットやSNSで拡散され、感化され繋がっていくためではないかと思えます。警護班は、ご存知のとおり平成14年をピークにして、昨年は戦後最少と言われておりますが、社会的不安はなくならない。体感治安が悪いというのは振り込め詐欺に加えて、このような薬物犯罪が減らないからかなと思えます。昔、「検挙は最大の防犯」と言われましたが、今は全然違いまして、如何に意識を醸成して、犯罪を防いでいくかというのが大事と考えます。薬物被害を如何に減らしていくかというのは喫緊の課題であり、保健所とタイアップして今後詰めていきたいと思えます。

【事務局】

○渡辺管理福祉課長

・災害医療

今年度の訓練の計画ですが、具体的なことはこれからです。今のところ保健所で考えているのは、昨年度は調査票を用い、各避難所の状況、救護の状況、被災者の状況等を情報伝達ということをやっていましたが、昨年から各市町で広域災害医療情報システムに入力可能になったということでしたので、昨年実施した情報伝達訓練で使用した調査項目を今年は広域災害救急医療情報システムの方でやってみるといふ、そういった面での訓練を実施できればと考えております。具体的なことに関しては、コーディネーター連絡会等を通じ、各市町に連絡し、ご案内、ご説明させていただきたいと思えますのでよろしくお願い致します。

・周産期医療

今年の3月に奥州にて、県庁主催で周産期の連携会議が開催されました。根本委員が仰るとおり、奥州では周産期母子医療センターに位置づけられている病院が県内唯一無い状況にあります。胆沢病院にも産科はございませんので、現在、奥州では産科のある施設が3つしかないということで、非常に危機的だということで、その会議では今ある医療資源でどのような連携体制が取れるかということを中心に協議させていただきました。とくに中部病院、北上済生会病院に緊急搬送するような場合があった時の円滑な搬送などに関して協議させていただきました。医師確保については、県庁のほうでもやっていますが、なかなか出来ていないというのが現状で、いずれにしても周産期医療については県南において3つの医療圏で連携しあってやるということで、取り組んで参りたいと考えております。

・人材育成

これにつきましては、資料にあります中学生、高校生を対象に現場経験も兼ねてのセミナーで、介護に関しては県南広域振興局の本局を中心に、中部地域では今年は北上の施設で行ないます。当所でも、管内の高校から少しでも多くの生徒たちが参加されるように周知して参りたいと思えます。

・在宅医療

在宅での看取りの件でしたが、昨年度の医療計画のモニタリングの結果でも、在宅での死亡者率は徐々に上がってきているということで、少しずつ在宅医療に向けた取組がこの管内でも進んでいるのかな、と認識しております。いずれ各市町の皆さんの方で、在宅医療連携拠点を中心にやっているの、保健所として今後もお手伝い出来ることがあればし

ていきたいと思えます。

○後藤保健課長

・引きこもり支援

県の実態調査では、花巻市のひきこもり者は約 100 人ということでしたけれども、管内全体ですと 550 人ほどの民生委員さんが回答してくださり、280 人ほどの引きこもりと思われる方々が居るのではないかと調査結果になっております。当地域では、引きこもりへの対策を取ったのが平成 16 年ということで、他の地域に比べて非常に早かったところでした。そして、当初から花巻市や社会福祉協議会等と連携して、共催事業の形で取組を進めてきたところでした。そして、本人の居場所、家族の相談事業、家族教室、そして当事者への医師による専門相談、訪問等を実施してきました。また、研修会等での普及啓発等も実施するなど、対策としては様々行なってきたところでした。

引きこもりに関する相談件数は年間 80～130 件ほど保健所には来ていまして、県内では 1 番多いところではないかと思っております。これまで市の皆様、関係団体の皆さまと連携して取組を進めて参りましたので、今後も普及啓発、相談、個別の支援につきましても連携をお願いしたいと思っております。

今回、川崎の事件ですとかが新聞に大々的に載っておりまして、「引きこもり」という言葉が非常に強調されてマスコミ等に取り上げられているように感じます。当事者の居場所の事業に参加されている方達が、「何か嫌だ」、「自分達がそう見られるのではないかと思ってしまう」と話していたり、家族の皆さんも色々な思いを感じていらっしゃるようで、つい最近の居場所や家族相談会でもその話題等が出ているところでした。

犯罪を起こしている「引きこもり」と言われる方達の中には、様々な状況の方がいて犯罪に繋がっている方もいると思えます。私達は、引きこもっている状態の人が、何故そのような状態になっているかについての診立てを可能な限り出来るように専門相談につなげますし、家族の方々が、家で 1 人で悩んでいるのではなくて、関係機関に相談できるように今後も取り組んでいきたいと思っております。

・胃がん検診

保健所では胃がん検診という取組がないところですが、各市町村では、高齢者が胃がん検診をバリウム等で行なうと非常に時間がかかるということが、多分共通の課題になっているのではないかと思います。

管内の保健師等の集まりの中で話題を共有しつつ、何か先進的な取組をしているところの情報等もこれから把握をしていきたいと思っております。

・受動喫煙防止対策

こちらで提供させていただいたポスター、チラシ、ティッシュ等も使っていただいているという話ですので、今後も効果的だったというような話を聞けば、更に改良をして普及啓発に繋がるようなものを考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

・麻疹、風疹等の感染症対策

新型インフルエンザだけではなく、管内の取組を進めてほしいという意見をいただきました。昨年度のこの会にも出た御意見であったかと思えます。新型インフルエンザ対策の協議会については、新型インフルエンザに特化したものではなくて、様々な新興感染症等が入って来た場合の対策についても考えたいと思っております。昨年、麻疹等が非常に全国的に拡大したことから、今年度については、麻疹、風疹が流行したときの対応についての基本的な研修や関係機関との意見交換をするような機会が必要だと考えており、当所の医療チームと連携して、院内感染対策や医療安全対策、感染症対策の中で研修を開催した

いと所内で検討しているところです。今後、具体的に決まりましたら、皆さんに御案内申し上げます。

また、ラグビーワールドカップの開催前に、感染症対策について皆さんと情報共有する場として、8月5日に会議を開く予定です。そのときに県の感染症対策の担当者呼び、感染症の発生状況等について聞きながら、対策について意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

・フッ素洗口の推進

田中委員が仰っていたように、フッ素洗口についてはまだモデル事業的に取組を進めているところで、マニュアルについても昨年出来たところです。モデルということですから、課題があると思われた遠野市（先ほどお話がありましたように、12歳のう蝕が課題であった）がまず事業に取り組んでいただけることになり、継続して2年実施していただけたところでした。

管内では、今年度、西和賀町でも実施するのですが、花巻、北上については、今後、御意見等を伺いながら検討していきたいと思います。

・自殺対策の推進（ゲートキーパー）

ゲートキーパーについてですが、様々な関係団体の皆様方が、常に自分の身近な関わりのある方々の心の不調等に早めに気づいて、それを関係機関に繋ぐというようなゲートキーパーの役割をしてくださっております。

また、市町村ではゲートキーパーの養成講座等の取組を進めていただいております。

保健所では、市町村がゲートキーパーを養成するにあたっての講座を開く指導者を養成する講座を今年度開催したいと思っており、更にゲートキーパーとしての広がり管内で持っていけたらと思います。

薬局の皆さんにお聞きすると、病院に行って薬を貰いに寄るお客さんが、（薬局で）本音を語られたり、薬を貰いに来る方々の経済状況がわかったりすることがあるとのことですので、薬局が様々な探知をしていただける場所だと思っておりますので、今後とも御協力の程よろしくお願い致します。

・受動喫煙防止対策に係る県の取組

県の施設は7月1日から敷地内全面禁煙ということになりまして、それに取組むところです。来年4月以降の法施行により飲食店等についても取組が必要なところなので、県で説明会等を今後開催していくということになっております。

県議会が禁煙になってないのではないかと新聞に掲載されておりましたが、それについては、県のほうでも色々意見が出ているようです。

・精神障がい者の支援

保健所では、どうしても緊急対応で精神の患者さんに関わる事が多く、退院をされ在宅に戻られてからの関わりについては、市町村の方々にお任せすること等もあります。

心配な方については関係機関につなぐとか、在宅で受けられる福祉サービスを精神の方々も受けられるように、精神保健福祉手帳を取得していただくとか、自立支援受給者証を取っていただく等、資源の活用についての推進もして参りたいと思います。

・感染症患者に係る搬送訓練

今年も昨年と同じように3地域で開催したいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

・外食栄養成分表示

外食栄養成分表示の登録に関しては、食品の衛生講習等で毎回説明をさせていただいて

ますし、その他に飲食店のほうに突撃訪問をして、「こういう取組を県ではやっています」、「ホームページにも載せておりますのでやりませんか」、とか、「メニューの中で 1 品でもいいので、こういう栄養成分表示を支援するので如何ですか」、というように出向いてお話をさせていただいたりもしています。食品衛生協会さんからも御協力いただきお話しただけならと思います。

また、アンケートについては、アンケート項目を考えているところですが、飲食店を開いていらっしゃる方にも、また利用されている方にも、どのような健康に配慮した取組を望んでいるかを聞いてみたいなということで、調査を実施する予定です。実施については、検討した上で、後ほど通知等させていただきます。

○三浦環境衛生課長

・薬物乱用防止対策

当保健所管内では、自生の大麻はないところです。自生の大麻というのはもともと戦前の麻を取る為に生育していたものが、いまだに残って自生しているというのが県内にあります。山田委員がいうとおり、大麻等はインターネットで入手しやすいとか、芸能界の問題とかファッション的な部分で使ってみたいというイメージの高校生もいらっしゃるということです。警察の生活安全課にもいっていると思いますが、我々は高校からの薬物乱用防止等の講習とか、高校サイドから要請のニーズがあった際には、各警察の生活安全課にも御協力いただきながら、対応しています。薬物乱用は、結局最後は身の破滅に繋がりますので、そのようなことにならないよう取り組んで、そういうものには手を出しちゃダメなんだということをしつかり教育して行く必要があるのかな、と思っています。

・狂犬病予防の推進

市、町と協力しまして、管内では 90% くらいの予防率を保っています。あとの 10% はどうなのかといつも言われるんですが、いずれ未登録、未注射の犬がいるにしても 7 割注射を打てれば方が一狂犬病が入ったときにも、セーフティで守りきれんだろうと言われておりますので、今の段階では大丈夫だろうと思います。とはいえ、打たない得がない形で我々も何かあったときには、そういったところの確認をさせていただきながら、市、町と連絡を取りながら登録、予防接種の向上に努めて参りたいと思います。

・食中毒の発生状況

伊藤委員からお話しがありました食中毒についてですが、昨年 1 件ありまして、アニサキスでした。サンマをスーパーから買ってきて、家庭で自分で調理した、家庭内の食中毒ということです。昨年は、全国的に非常にアニサキスが多く、全国的にカツオでのアニサキスが多かったです。県内でも 9 件発生しています。アニサキスがダントツトップだだと思います。一昨年は 0 件、その前の年は 3 件で、2 件がカンピロバクターで他 1 件がきのこ、植物毒です。それ以前は、確か花巻で 100 人規模のサルモネラの事件があった記憶がありますが、今日は詳しい資料を持ってきてません。全国的には、件数では当然ノロウイルスが断然多いのですが、カンピロバクター、アニサキスです。数で言いますと、アニサキスが 1 番多くて、次にカンピロバクター、そしてノロウイルスとなります。患者数になると全然違います。アニサキスは、ほとんど 1 人ということになります。25 年に食中毒の統計が出まして、アニサキスが単独になったということで、その年に合わせて、ひらめのクドア・セプテンクタータ（寄生虫）等、知られていなかったものが、国の調査等で原因だということが判ったということと、併せて、馬刺しでの食中毒がザルコシスティス・フェアリー（原虫類）が原因と判ったということで統計が見直されました。今までは、病院でアニサキスが原因と診断されているんですが、保健所に届けている部分と、届けられなかった部分とあると思います。アニサキスは昔から知られている、イカとかカツオの内

歳にいて、時間が経つと筋肉に入って行く。実際には、目視出来ますので本来ならば、刺身にするときには取り除けるのですが、忙しければ取り除ききれないという例もあるわけです。県内でもアニサキスは、若干多めになっています。

・食品衛生指導員の状況

中村委員からお話しがあった、食品衛生指導員が減少しているということですが、県内どこも同じです。お父さん、お母さんがやっていて、息子さん、娘さんが継いで、「お前も頑張って指導員やれよ。」というようなパターンしか最近なかなか新しくなっていない。こちらから指導員になってみませんかと言える部分ではありません。とはいえ、相談しながら進めていかないと、なかなか HACCP の制度化についていけないのかなと感じています。

・食品衛生協会への加入

県からも食品衛生協会と協力して実施するようにと 10 何年前から通知を受けてまして窓口において、リーフレットを配るということで、北上支会からもそういう話を頂いていますので、事務局が 1 階、2 階になりますが、そのような対応で加入促進を図りたいと考えています。加入促進するには、良い所を宣伝する必要がありますので、安心部分の保険のところを前面に出してやっていただくのか、色々やり方はあると思いますが、そういうところを考えていければと思います。

○ 柳原所長 補足

各課長から説明があったことに補足します。

伊藤委員からお話しがあった、循環器病対策基本法に基づく対応ということでございましたが、これについては今後県において、国の方針を踏まえて必要に応じて、県の対策が策定されるのが普通だと思いますので、その際に圏域としてどのような取組みがあるのか、ということについては地域医療推進連携会議等を活用して、情報提供させていただければと考えております。

それから根本委員からお話しがあった、脳卒中死亡率が前回からも増加しているということで、これまでの対策では如何か、というお話をいただきました。私共としては、死亡率といった統計数字は上下しながら全般的な傾向を示していくのだろうと考えています。したがって、今回の結果が前回の結果を上回ったとしても、全体的な傾向として減少傾向にあるだろうと私共は考えております。したがって、脳卒中死亡リスク 3 大原因、高血圧対策、これは服薬を含めた血圧管理を、家庭血圧測定の普及を含めて、皆様の御協力を得てさらに進めていくとともに、各食生活改善推進委員さんにも取り組んでいただいています、減塩の習慣を一層普及させていただく。そして、市町村と連携し特定検診の結果を活用した保健指導ですとか、残念ながら喫煙率の高い本県の状況でございますので、受動喫煙対策の法による施行によって喫煙率を下げることもかを、総合的に粘り強く地道に取り組んでいくことが、われわれとしては必要ではないかと考えております。

それから、三浦委員からお話しがあった、麻しん、風疹の発生状況でしたが、全国的に流行する中で、患者さんと接触した方々の健康観察という事例はありましたが、この管内で発生した届出を受けたということは、昨年度はありませんでした。

以上で、補足は終わりますが、委員の皆様方から貴重なご意見をいただきました。このご意見も踏まえながら、今年度運営に努めて参りたいと思います。

○議長

ありがとうございました

引きこもりの情報提供になりますが、北上で一昨年、引きこもりの親と私達と10名くらいで懇談会を行なった中で、親のネットワークを作って、様々な情報発信をしたほうがいいのではないかという話になった。その中で、現在、北上のコミュニティ FM に自ら出演をされ、2人でやっていて、1人は引きこもりの経験がある女性と一緒に番組を作って月1回放送している。引きこもりの本人に皆様に情報を伝達しているという活動をしています。非常に良い取組だなと思っていますので、紹介をさせていただきました。

(3) その他

○ 他に何も無いようなので、議事を終わります。御協力ありがとうございました。

5 その他

意見なし

6 閉会（中野次長）